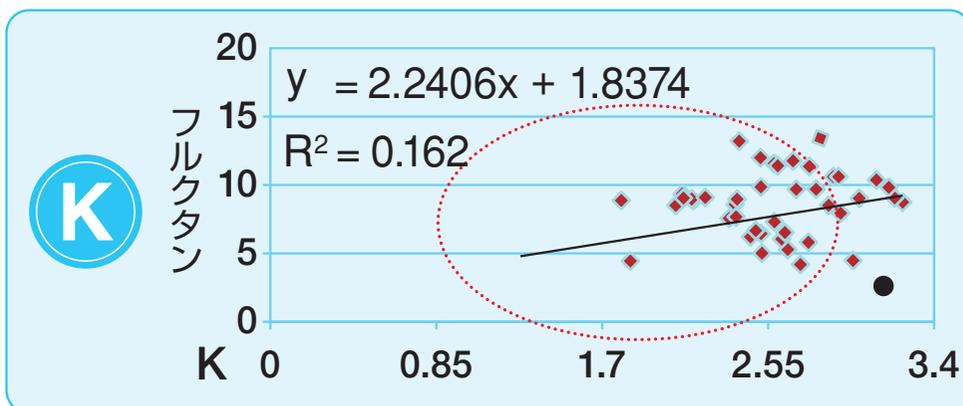
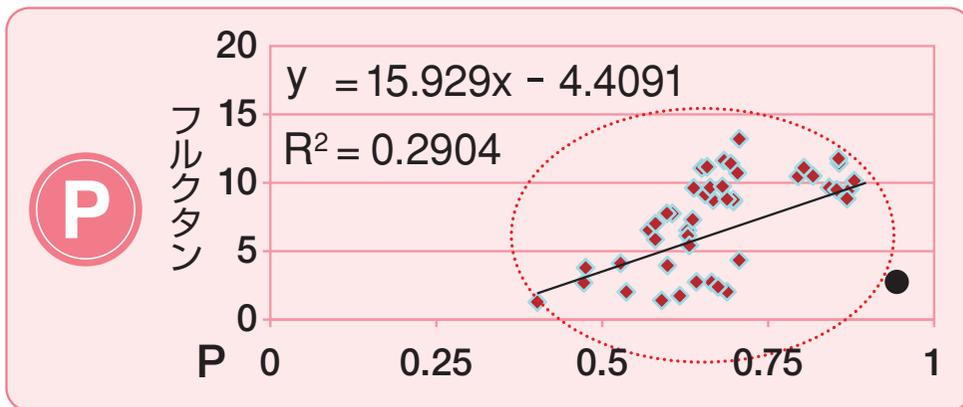
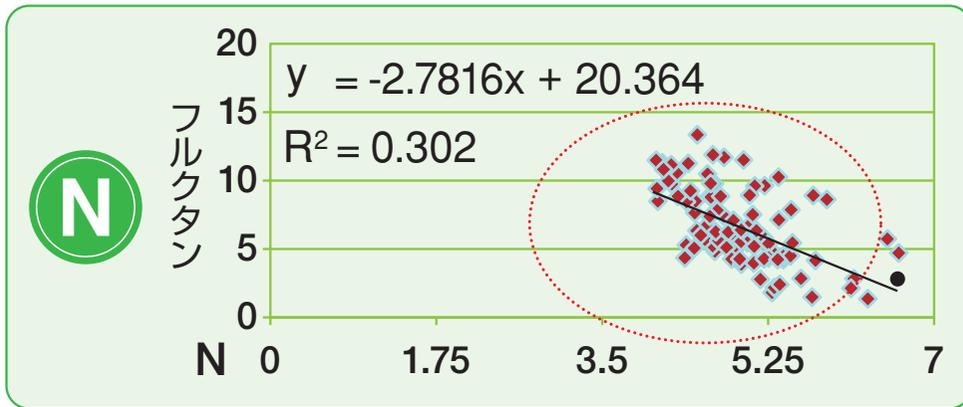


# 夏のフルクタンとN・P・Kとの関係 (2009/8/7)

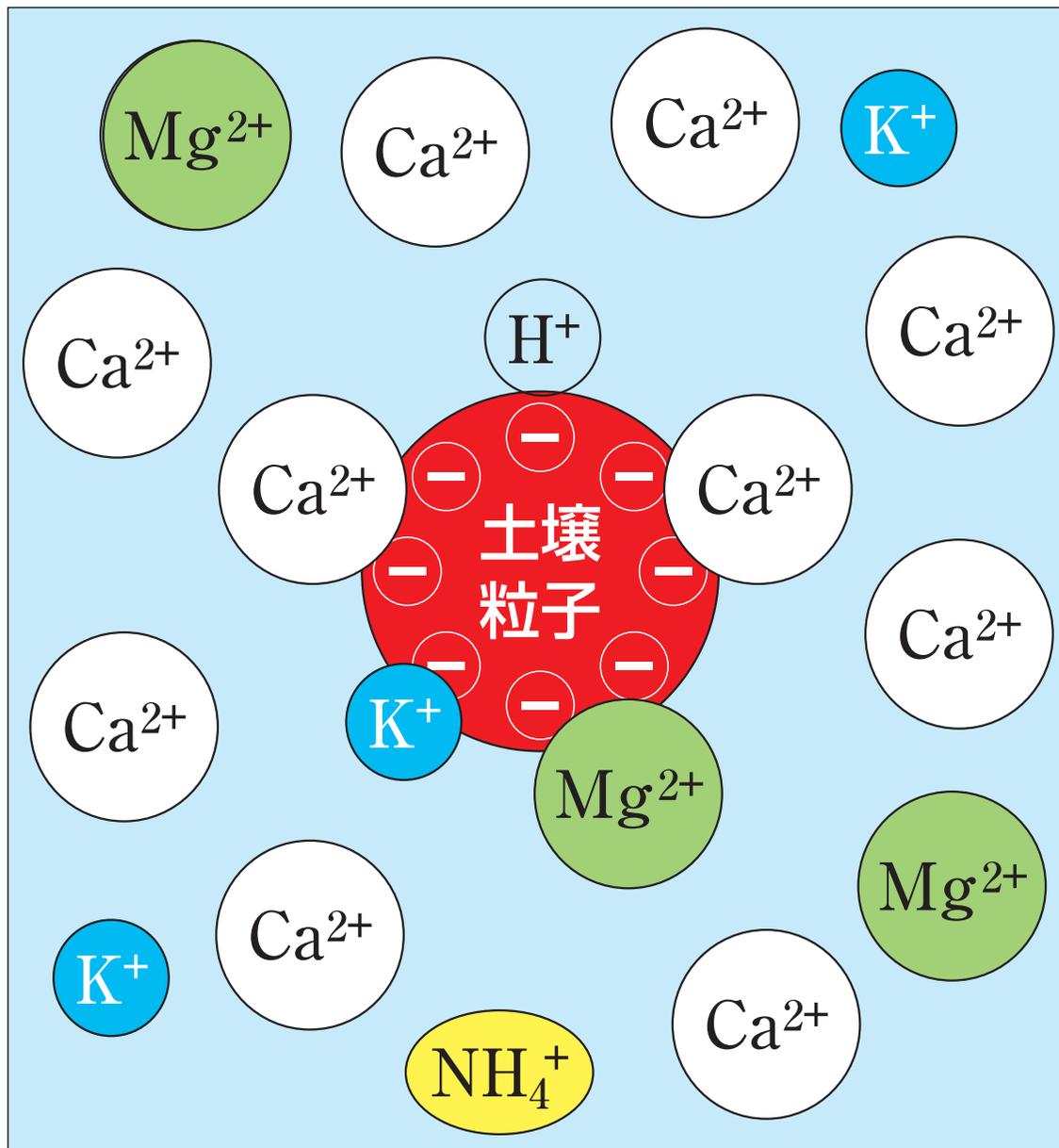


- 窒素(N)と強い負の相関
- リン(P)、カリウム(K)と正の相関

## 推察されること

- 窒素の刺激で、地上部の伸長=炭水化物の消費が起きる
- 夏に葉身中のリンを高く保つことで、光合成が保たれる?
- 夏にカリウムが足りていると、炭水化物収支が改善する?
  - ・根の活性が高い
  - ・気孔開閉など耐乾燥反応が動く
  - ・炭水化物代謝が動く

# 土壌中の陽イオンの「椅子取りゲーム」



勝ちパターン

= Ca (カルシウム)

Mg (マグネシウム)

K (カリウム) などの

**ミネラルイオンが優勢**

(窒素暴発が起きにくい・  
ミネラルを十分に供給できる)

# ニュートリDG Kプラス・カルテックの効果



2010年 5月28日、7月2日 30g/m<sup>2</sup>施肥

- 🌱 ベントグラスの密度の向上、病害軽減
- 🌱 土壌中の交換性K量の増加、NH<sub>4</sub><sup>+</sup>-N量の減少
- 🌱 葉身中のK含有量、初秋のフルクタン含有量の増加

ソイルサンプラー掘取り（8月6日）後の回復力の速さ

9月3日撮影



DG Kプラス区

DG カルテック区

対照区